

『東京美術学校校友会月報』記事抜粋

東京美術学校近事「一三〇八」巻号 T・四・一・三〇日

○教授諸氏の昇叙 教授沼田勇次郎、同小堀鞆音、同福井信之進の三氏は、舊臘十六日各高等官五等に陞叙せらる。

○神木教授の叙位 教授神木健介氏は、十二月二十一日付を以て、正七位に叙せられたり。

○高田書記の叙勲 書記高田松男氏は、十二月二十三日付を以て、勲八等に叙せられたり。

○久米教授の休職と渡米 教授久米桂一郎氏は、十二月二十六日付を以て休職を命ぜられたるが、一月十六日午前十時新橋を發し、同日横濱出帆の地洋丸に搭じ、桑港博覽會へ向ひて渡米の途に上られたり。〔春カ〕

○職員近況 教授神木健介氏は舊臘麴町區元園町一丁目六番地へ轉居せらる。▽助手田邊至氏は兼て田端百番地にその畫室を新築中なりしが、此程落成引移られたり。▽教授結城林藏氏は十二月中旬より中耳炎にかゝりしが、入院加療せられたる効ありて、此程快癒せらる。▽囑託岡田信一郎氏は兼て病氣にかゝり、此程小田原へ轉地し加療中なりと。▽教授白濱徹氏は去る十二月末三州豊橋市教育會主催の講習會に招聘せられたり。▽石田「英一」助教授は別項通信欄にも記する如く、内地へは歸還せしが、殘務整理のため、本月末ならでは歸京せざるべしと。▽囑託乙竹岩造氏も、先頃來病氣に罹

られ、漸次快方の由なるが、今尙引籠り治療中なり。

東京美術学校近事「一三一九」 T・四・二・二八

○磯野書記の休職満期 本校書記磯野富之助氏は、一月二十八日を以て休職満期となりたり。

○石田「英一」助教授の召集解除 昨年青島攻圍軍のために召集せられたる石田助教授は、去る一月三十一日付を以て召集を解除せられたり。

○本校規則の改正 本校規則は、昨年九月文部省令第二十八號を以て本校規程（圖畫師範科を除く）を發布せられたるに基づきて、客臘二十八日付を以て本省の許可を得 改正を施されたり。今茲にその改正條項の重なるものを擧ぐれば左の如し。

一、豫備科は、從來は獨立の一科なりしを今後は之を各科に分屬せらる。

一、從來の圖案科を第一部（工藝圖案）第二部（建築裝飾）とせられ、新たにその課程を定めたり。

一、今般新たに製版科を置き、その課程を漆工科の次位に列せられたり。

一、入學手数料は「金貳圓」なりしを「金參圓」に改む。

一、入學志願者は、從來人員超過の場合に限り、撰拔試験を施されたるが、本年よりは、總ての志願者に之を施すこととなれり。

一、研究生よりは、今後は實習費として、一學年金拾五圓を納め

しむ。

一、本校生徒以外のものにして、一部の實技を學修せんとするものゝために、別科生の規程を設け、實習費として一學年金參拾圓を納めしむ。

一、外國人の授業料も、從來は一般生徒と同額（金貳拾五圓）なりしかど、今後は一學年金四拾五圓とせらる。

○本校の生徒募集 本校は例年の如く、來四月より入學せしむべき、豫備科生徒約百人、製版科生徒約七人、圖畫師範科生徒約二十人を募集することとなり、その旨官報及諸新聞紙を以て發表せられたり。今本校規則に規定せられたる願書及添付書類等のことを除き、此他に於て志願者の心得べき重要な事項を記せば左の如し。

○豫備科、製版科入學志願者心得

摘要

入學願書提出期限（郵便に付するときは必ず書留郵便に依るべし）

本年三月一日より同月十五日迄とし手数料金參圓と共に本校に提出すべし

専門本科配當人員

日本畫科	二十人	西洋畫科	廿八人
彫刻	二十人	圖案	十人
牙彫部	五人	第二部	十人
金工科	五人	鑄造科	五人
漆工科	五人	製版科	七人

入學試験科目（中學校卒業程度）

圖案科第二部志願者

英語（英文和譯、書取）歴史（日本）數學（算術、代數、幾何、三角）自在畫、用器畫法（幾何畫法、投影畫法）

製版科志願者

英語（英文和譯、書取）物理學、化學、數學（算術、代數、幾何、三角）用器畫法（幾何畫法、投影畫法）自在畫

日本畫科、圖案科（第一、第二部共）、金工科、鑄造科、漆工科、製版科志願者

自在畫

此自在畫は毛筆畫又は鉛筆畫の中受験者の選擇に任すべきに依り當該科の入學志願者は其入學願書に附箋を以て毛筆畫又は鉛筆畫受験の旨を表示すべし

西洋畫科志願者

木炭畫

彫刻科（塑造、木彫、牙彫部共）志願者

彫塑

入學試験施行期日 本年三月三十日より本校内に於て施行す

入學試験日割發表期日 本年三月二十九日（月曜）正午迄本校美術部校舍内揭示場に發表すべきに依り入學志願者は總て本校に出頭して熟覽承知すべし

入學許可者人名發表期日 本年四月七、八日頃前項揭示場に發表す 但し官報掲載の日を以て本入學許可の日と知るべし

宿所其他届出

地方より出京したる者は直ちに其宿所を書面を以て本校に届出

づべし

入學志願者は總て（圖案科第二部及製版科志願者を除く）本年三月二十九日迄に本校教務掛に就き入學後學習すべき外國語學屆（英語、佛語の内）を爲すべし 但本屆用紙は本校より下附す

○圖畫師範科入學志願者心得摘要

當該學校長薦舉期限其他

豫備科入學願書提出期限に同じ

手數料を免除す

選拔試験施行期日及試験場

選拔試験日割發表期日、入學許可者人名發表期日、地方出京者宿所屆等は豫備科入學志願者に同じ（外國語屆は提出するに及ばず）

選拔試験學科目（中學校卒業程度）

英語（書取、翻譯）歴史（日本、東洋、西洋）國語（書取、作文）自在畫（寫生、圖案）用器畫法（幾何畫法全體、投影畫法初步）身體検査、口述試験

修業年限及義務年限等

修業年限は三ヶ年とし在學中授業料は之を徴收せず

今回募集の生徒には本校規則第五十四條に依る學資を支給せず

卒業者は文部省令第二號（明治四十三年三月十日改正）東京美術學校圖畫師範科卒業者服務規則に依り二ヶ年間教育に關する職務に従事する義務を有す

卒業後下附免狀 圖畫科、手工科、習字科とす 但習字科は成績

良好者に限る

○寫眞科の新設計畫 本校へ寫眞科を設置すべき件は、さきに帝國

議會に其の建議の通過を見たるも、其後財政の狀態により、未だ政府に於て之が設置の運びに至らざるが、近時東京の寫眞家有志は、寫眞界の情勢に鑑み、其儘に打棄て置くべきに非ずとなし、協議の結果本年四月より本校に寫眞科を設置せんことを望み、當局とも交渉を重ねつゝあれば、多分來る四月より本校に此の科を設置し、生徒をも募集するの運びに至るべしといふ。但しその設置に關する形式は未だ判明せず。

○職員諸氏の近況 前號にも記したる囑託乙竹岩造氏の病氣は其後漸次に快方に向はれ、二月下旬よりは出勤せらるべしといふ。△囑託岡田信一郎氏は、小田原へ轉地療養中なるが、漸次快方に赴かるゝといふ。轉地先は、小田原町十字町四丁目字新久福島方なりと。△教授神木健介氏の電話番号は番町五七三に改められたり。

東京美術學校近事「一三一〇。T・四・三・二五」

○教授諸氏の敘位 昨年末高等官五等に陞敘せられたる本校教授福井信之進、同沼田勇次郎、同小堀轡音の三氏は、何れも二月二十日を以て從六位に昇敘せられたり。

○本校生徒の宮城拜觀 本校圖畫師範科生徒並に日本畫科其の他の教員志望者にして、三月末卒業すべきものには、昨年の如く宮城拜觀を差許されしかば、二月廿六日を以て白濱〔徴〕教授引率の下に於て、一同拜觀をなしたり。

○臨時寫眞科新設と募集 本校に寫眞科を設置せらるべきことは前

號にも記する所ありしが、その設置手續は漸次に歩を進め、二月二十日に至りて文部省令を以て臨時寫眞科設置の發表を見るに至りたれば、本校にては直に同科生徒の募集を爲すこととし、最初の生徒として約十三名募集のことを、二月二十四日の官報を以て發表せられたり。されば本校規則も此省令に基づきて二月二十四日改正せられ、此科の課程表は製版科の前へ挿入せらるべし。その改正條項左の如し。

規則中改正條項

第一條第一項中「製版科及」の次に「臨時寫眞科并に」の七字を加ふ

第二項中「製版科」の次に「及臨時寫眞科」の六字を加ふ

第二條第二項中「製版科」の次に「及臨時寫眞科」の六字を加ふ

第三項中「製版科」の次に「及臨時寫眞科并に」の八字を加ふ

第三條中製版科課程表の次に「臨時寫眞科」を加へ左の如く學科

課程を挿入す

(臨時寫眞科課程表略す)

東京美術學校近事「一四一」。T・四・四・三〇」

○諸氏の敍勲 教授岡田三郎助氏は三月二十九日を以て勲六等に敍せられ、瑞寶章を授けられたるが、同日囑託工學博士關野貞氏は勲五等に、同乙竹岩造氏は勲六等に敍せられ、各瑞寶章を授けられたり。

○佐竹〔義堯〕^{よしたか} 侯爵銅像の製作 今般戊辰勤王紀念銅像建設委員會

より、故佐竹侯爵銅像製作を本校へ依頼せられたるにつき、三月二十九日付を以て該銅像原型製作並に鑄造工事監督を教授高村光雲氏へ、其原型の製作を教授白井保次郎氏へ、鑄造工事を助教授津田信夫氏へ、銅像建設に關する設計製圖擔任を助教授小場恒吉氏に命ぜられたり。猶右に關し、正木學校長、高村教授、小場助教授は、四月一日より往復五日間を以て、秋田縣へ出張せられたり。

○主任の任命 三月三十一日付を以て、教授結城林藏氏は製版科主任を、教授鎌田彌壽治氏は臨時寫眞科主任を命ぜられたり。

○修學旅行出張 各科四年生の京都奈良の修學旅行に關し、三月三十一日付を以て、教授岡田秀、囑託畑正吉、書記高田松男、同増井兼吉の四氏は、各出張を命ぜらる。出發は四月十一日の豫定なり。

○雇の拜命 末弘直士氏は、四月二日本校雇を命ぜられ、臨時寫眞科助手を命ぜられたり。

○職員諸氏の近況 島田〔佳矣〕教授は三月初旬より中旬へかけ、鹿兒島縣圖案講習會の講師として出張せらる。△海野勝珉氏は三月二十日頃より神經炎にかゝり、一時は關節の屈伸自由を缺きたるよしなりしが、四月初めに至りては治療の効ありて筆を持つを得る迄に至りしといふ。切に治療を祈る。波根〔義三〕助教授は四月二日郷里の母堂遠逝の計に接し、急遽歸郷せられたり。痛惜察すべし。△助教授松岡輝夫氏は去る三月十日頃市内小石川區雜司ヶ谷町百二十五番地へ轉居せらる。△病氣療養中なりし岡田信一郎氏は全快せられ、今學期始めより出校せられたり。

○第二十四回卒業證書授與式 本校第二十四回の同式は、例年の如く三月二十九日、風暖かに櫻花笑ひを含むの時、本校講堂に於て行

はれたり。午後一時三十分を過ぎ、各所來賓、卒業生來賓、本校職員、卒業生の著席するや、正木「直彦」學校長は式辭に引續きて、卒業生七十八人に順次卒業證書を授與せられ、次ぎに卒業生に對して餞別戒飭の辭あり、尋で一木「喜徳郎」文部大臣は壇に上られ、訓辭を朗讀せられ、卒業生總代金工科小杉直吉氏の答辭ありて式を終り、それより來賓諸氏は別室に陳列したる卒業製作を觀覽し、職員卒業生諸氏は紀念の撮影をなしたり。その卒業生姓名、文部大臣訓示、卒業生答辭等は左の如し。

卒業生姓名（○印は教員志望者）

日本畫本科

パレーの前 ○太田 義一 山形平
 春さき ○富田賢太郎 愛知平
 深山の秋 ○得重常太郎 山口平
 八千代さん 加藤丑之助 富山士
 櫻梅の少將 ○服部 謙一 愛知平
 光悟淨寂 郷倉 與作 富山平
 蝶のたはむれ ○金上 盛三 福島平
 裳裾ひきて 狩野 守久 東京士
 つゝじの頃 ○西尾 聖 静岡平
 海岸の村 友田 治夫 兵庫士
 金の壺 植松 俊郎 静岡平
 歡喜天供養 ○山根 泉介 島根平
 大島 林 與 福岡平
 風景 丹羽 芳松 愛知平

夏冬山水 ○山邊 重平 長野平
 夏の夕 池田 信 大分平
 〔原文空白〕 ○清家 恕 愛媛士

日本畫選科

海邊の女 夏目 利政 東京士
 歌妓 池田桃太郎 岩手平

西洋畫本科

自畫肖像、針仕事 ○野田 半三 東京士
 同、裸體 大久保作次郎 大阪平
 同、濱邊 及川 康雄 三重平
 同、書齋の女 ○松見 吉彦 和歌山士
 同、憩ひ ○福原 全秀 東京平
 同、瓦やく村 ○宮武 辰夫 香川平
 同、庭 ○古郡 貞一 青森士
 同、やすみの間 ○守田 千穠 福岡平
 同、風景 鍋井 克之 大阪平
 同、柿の頃 ○金子 保 東京士
 同、無題 栗原 誠 静岡平
 同、老の春 ○中村彌藤治 長野平
 同、糸かへし 川島 頴正 福岡士
 同、姉と妹 山田誠一郎 北海道平
 同、外海の船置場 市川芳太郎 福岡平
 同、水戯 小松喜代子 福島平
 同、友達の妹 濱 哲雄 福岡平

同、少女 松美長四郎 石川平

西洋畫選科

自畫肖像、姉妹 高 義東 朝鮮
同、彈琴 潘 壽恒 支那

彫刻科

塑造部本科

燃ゆる精 長谷川勝之 富山平
失題 清水外三郎 富山平

塑造部選科

昏倒 塚越 東七 栃木平

呪はれた不遇者 勝尾 二郎 宮城平

芽立つ頃 小野田嘉助 山形平

濁流 大西三次郎 京都平

木彫部本科

淨水 高須 俊彦 山口平

晚鐘 岡 義治 香川平

離愁 山口不可止 香川平

圖案科

第一部本科

各種廣告圖案 淺野 廉 東京平

織物壁掛圖案 ○秋保謹四郎 山形士

婦人服裝圖案 藤岡 茂男 東京平

第二部本科

美術館圖案 水谷 慶治 愛知平

金工本科

天女圖鏤 小杉 直吉 富山平

釋尊成道圖香箱 加藤 幸三 香川平

蛙相撲圖手箱 手島 達雄 東京平

金工選科

菊圖香爐 山崎 敬止 東京士

蓬萊山圖香箱 馬場 信一 東京士

獅子形水滴 江島 信一 佐賀平

鑄造本科

聖觀世音 佐藤泰治郎 秋田平

香爐 高村 豐周 東京平

五具足 柳 俊夫 長野士

漆工選科

木地やつで蒔繪燗爐前立

中村保太郎 静岡士

圖畫師範科

村上 稠 香川士

多米 孝 静岡平

中安 保 静岡平

滿藤馬之助 岡山平

眞先 香苗 兵庫平

安ノ井道三郎 京都平

品田七太郎 新潟平

穴水 義行 青森平

卒業生科別人員				卒業生科別人員比較			
科名	本科	選科	計	本科	選科	計	
太田 新吉			宮城平				
菅野 廉			宮城士				
佐々木正明			岐阜平				
田中 稔			福岡平				
古屋 浩藏			山梨平				
多田 三郎			島根士				
岡部 虎雄			福島平				
佐藤常五郎			大分士				
日本畫科	一七	二	一九				
西洋畫科	一八	二	二〇				
彫刻科							
塑造部	二	四	六				
木彫部	三	〇	三				
圖案科							
第一部	三	〇	三				
第二部	一	〇	一				
金工科	三	三	六				
鑄造科	三	〇	三				
漆工科	〇	一	一				
圖畫師範科	一六	一	一六				
合計	六六	一二	七八				

科名	本科	選科	計	本科	選科	計
日本畫科	九	四	一七	二		
西洋畫科	二〇	一	一八	二		
彫刻科	五	五	一〇	二		
圖案科	八	一	九	一		
金工科	一	三	四	一		
鑄造科	一	三	四	一		
漆工科	六	一	七	一		
師範科	二〇	一	二一	一		
計	七〇	一三	八三	二		

文部大臣訓辭

美術ノ世道人心ニ關スルヤ大ナリ、豈啻ニ昭代文明ノ光彩タルノミナラ
 シヤ。卒業生諸子、今ヤ多年ノ研修ヲ遂ゲテ將ニ世ニ立タントス、冀ク
 ハ諸子其ノ抱負ヲ高大ニシ、其用意ヲ愼密ニシ、生涯ヲ研究ニ終ヘテ悔
 イザルノ覺悟ヲ以テ業ニ從ヒ、又常ニ德性ヲ磨キテ根柢ノ培養ヲ怠ラ
 ズ、以テ將來ニ大成センコトヲ期セヨ。若シ夫レ教育ノ任ニ當ルモノ
 ハ、公務ヲ奉ズルコト忠實ニ生徒ヲ導クコト愼切ニ、獨リ技藝ノ師タル
 ノミナラズ、人格德操ニ於テモ、亦衆生ニ範タランコト努メヨ、一言以
 テ祝辭トナス。

大正四年三月廿九日

文部大臣法學博士 一木喜徳郎

卒業生答辭

玆大正四年戰勝ノ春三月、本校第廿四回卒業ノ盛典ヲ舉行セラル、ニ當

リ、文部大臣閣下ヲ始メ、朝野名士ノ賁臨ヲ辱ウシ、特ニ懇篤ナル諭辭ヲ賜リ、生等ノ光榮何モノカ之ニ如シヤ。

回顧スレハ生等本校ニ學ブコト既ニ五星霜、今ヤ各其志ス藝術ノ端緒ヲ探リ、益々自己ノ本領アルヲ覺リ、廣ク過去將來ノ趨勢ヲ窺フコトヲ得タルハ、是偏ニ校長及諸先生ノ熱心懇切ナル指導教訓ノ外ナラサルナリ、豈感佩ノ至リニ堪ヘザラン。

惟フニ美術ノ事タルヤ、天才ガ畢生ノ努力モ亦極ムルニ難シトカ、生等短才ニシテ能ク其奥妙ヲ極メ、有終ノ美ヲ收ムル能ハサルヲ恐ルト雖モ、逡巡ハ之レ婦女子ノワサ也、小成ニ安ンセス萬難ニ撓マス、一意専心益々研鑽ニ勉メ、修養ニ勵ミ、大正聖代ノ斯界ニ貢獻シ高恩ニ酬ヒ延イテハ國運隆盛ノ華タランコトヲ期セン哉。

若シ夫レ専心教育ニ従事スルモノハ、本校ノ趣旨ニ則リ、忠實其職ニ盡シ、且又社會ニ於ケル美術思想ノ普及ニ努メ、國家ノ生等ニ豫期スル所ニ悖ラサラン事ヲ期ス、聊カ蕪辭ヲ述ヘテ答辭トナス。

大正四年三月廿九日

東京美術學校第廿四回卒業生總代

小杉 直吉

○新入學生の決定 本校生徒募集のことは本誌第十三卷第九號に記すが如く、各科とも本年よりは試験を施すこととなり、三月三十日より四月一日までに試験を了り、同月七日に至りて、官報を以て入學許可者の人名を發表せられたり。其科別人名、人員比較等左の如し。

豫備科（日本畫科）

山口將太郎 山形士 藤野 久平 富山平
林 虎雄 岡山平 安田 信一 石川士

豫備科（西洋畫科）

神山 幸治	栃木平	出島啓太郎	石川平
西垣 隆滿	東京平	飯田 九一	神奈川平
西尾 雅	岐阜平	中島 老	新潟士
廣川 操一	新潟平	鍋島 紀雄	佐賀士
白井 剛夫	長野平	大童 秀邦	鹿児島士
中島 英一	愛知平	藤田祐四郎	茨城平
松田 茂雄	大阪平	宮武 菁一	香川平
山見 柳司	福岡平	川瀬 忠雄	三重平
中井 三介	香川平	岡田 季雄	香川士
小川 誠一	香川平	濱砂 重光	宮崎平
金子 安和	東京平	須田 質	福島士
大岡 龍男	東京平		
吹春十二郎	福岡平	中村 研一	福岡平
勝田 哲三	大阪士	河井 守秀	福岡平
澁谷泰次郎	大阪平	湯川 次郎	廣島平
及川 文吾	巖手平	金澤秀之助	秋田平
高桑千代雄	北海道平	中村 省吾	静岡平
鈴木辰之助	神奈川平	武山 鐵夫	東京士
米須 秀龜	沖繩士	花村喜代藏	静岡平
黒川 英雄	東京平	江川 武	宮城平
坂本 孝正	福島平	谷口 國介	香川平
佐藤恭次郎	島根平	人見 純一	東京士
山喜多二郎	太福岡士	佐々木節郎	宮城平

武藤 辰平	佐賀平	吉本 政吉	東京平	塚本 闇治	東京士	熊田 猛夫	福島平
吉岡基太郎	大阪平	内藤進一郎	大阪平	多賀谷信乃	群馬平	手島 英雄	東京平
小笠原 勝	大阪士	山口 三郎	東京平	豫備科（圖案科第二部）			
前橋 信助	栃木平	宮本 恒平	東京士	土井 軍治	福岡平	僊石惠四郎	島根平
青柳 瑞雄	東京平	服部 季彦	東京士	吉田五十八	東京平	磯江 巖	東京平
小堀稜威雄	東京平	森本 眞一	奈良平	岡田捷五郎	東京平	大瀧 丈夫	東京士
和田 香苗	鹿兒島士	鈴木千久馬	福井士	豫備科（金工科）			
豫備科（彫刻科塑造部）				長谷川義隆	香川士	小宮 新吉	東京平
中島 東洋	石川士	川島 次郎	富山平	山口 全	山梨平	佐々木勝三郎	宮城平
大塚 尙武	石川士	大村安治郎	富山平	豫備科（鑄造科）			
加藤鬼頭太	東京平	武井 直也	長野平	豐田 勝秋	福岡士	鳥山 貞三	東京平
雨宮 治郎	東京平	豫備科（漆工科）				代永征二郎	東京平
豫備科（彫刻科木彫部）				北原 三佳	長野平		
鷺塚與三松	富山平	伊賀 忠一	香川平	高田 三郎	岡山平	城川重太郎	富山平
西村 才藏	兵庫士	豫備科（彫刻科牙彫部）				清水 正雄	神奈川平
横山 繁行	熊本士	脇田 米一	愛知平	櫻井 繁香	富山平	谷内源一郎	石川平
横山 與作	静岡平	久本 春雄	北海道平	製版科第一年級			
豫備科（圖案科第一部）				田澤 昌義	東京平	田中 市郎	京都平
梨本正太郎	東京平	森田 武	京都士	波々伯部方次	福井平	澁谷 孝次	栃木士
岩崎 武夫	石川士	上野正之助	富山平	戸塚 暢夫	東京平	河野 三郎	長野平
中島 精一	石川士	淺地 豐治	石川士	矢澤 三壽	東京士		
楠永 一直	高知士	辻野 幸吉	石川士	臨時寫真科第一年級			
宮崎 健治	石川士	中村 正雄	静岡平	中山 岩太	福岡士	山岸 貞吉	山形士
				生澤 英二	群馬平	石川 成光	北海道士

山本	達雄	東京平	内田	兵馬	埼玉平
末岡	利亮	山口平	山口	六三	秋田平
成田	隆吉	愛媛士	宮村	一則	熊本士
加納	四郎	東京士	宇高	久敬	愛媛平
畑	保之	東京士			

圖書師範科第一年級

吉澤	和義	長野平	山口	禎二	福岡平
佃	鶴雄	鳥取平	林	憲亮	奈良平
渡邊	武久	福島平	勝間田	武夫	静岡平
麻生	秀二	東京士	横川	毅一郎	長野士
坪田	繁	福井平	路川	健介	茨城平
加茂	滿	静岡平	松田	忠一	島根平
藤田	熏	奈良士	志賀	寛治	福岡平
澁江	龍雄	鹿児島士	小山	知弘	富山平
鈴木	勝	長野士	高橋	重巳	青森士
大竹善次郎	福島平				

備考 以上の中、彫刻科（牙彫部）の横山繁行、脇田米一は四月九日に、横山與作は十二日に、久本春雄は十四日、に入學を許されたるものなり。

入學志願者及許可比較表

志望科別	昨年の 志願者	同上 許可者	本年の 志願者	同上 許可者
日本畫科	四〇	二四	四六	二七
西洋畫科	一〇八	三四	一〇六	三六

彫刻科（塑）	一四	一〇	九	七
同（木）	七	五	三	三
同（牙）	二	二	一	四
圖案科（一部）	三〇	一三	四二	一四
同（二部）	三〇	一三	一一	六
金工科	八	四	六	四
鑄造科	二	二	五	四
漆工科	九	八	六	五
製版科			一四	七
臨時寫眞科			三三	一三
師範科	五二	二四	五七	九一
計	二七二	一二六	三三八	一四九

備考 本年の牙彫部入學許可者四人は皆西洋畫科より志望替を爲したるものなり。又製版科と臨時寫眞科は本年始めて生徒を募集したり。○本校一覽の配付 昨年より本年に亘る本校一覽は、先般例によりて本校卒業生諸氏（三月末卒業者を除く）へ頒付せられたり。

東京美術學校近事「一四—二。T・四・五・三〇」

○依願免官と敍位 東京高等工業學校教授兼本校教授松岡壽氏は、四月十日依願本官を免ぜられたるが、同月三十日特旨を以て従四位に敍せられたり。

○授業囑託の諸氏 四月十九日付を以て、加藤精一氏へは臨時寫眞科寫眞術授業を、宮内幸太郎、江崎清、前川謙三の三氏へは同科寫

眞實習授業を、森芳太郎氏へは臨時寫眞科及製版科の物理學、化學、化學實驗授業を、米村鍵一氏へは製版科の製圖授業を囑託せられたり。

○教授の敍勲 教授結城貞松氏は四月二十四日付を以て勲六等に敍し、瑞寶章を授けられたり。

○授業擔任の變更 日本畫科助手なりし篠田十一郎氏は圖畫師範科日本畫擔任を、西洋畫科助手なりし田邊至氏は同科西洋畫擔任を、何れも五月七日付にて命ぜられたり。

○諸氏の出張 教授島田佳矣氏は四月廿四日より一週間福岡縣博多へ審査の用務にて教授櫻岡三四郎氏及助教授石田英一氏は、五月四日より五日間奈良市へ、囑託香取秀治郎氏は、五月七日より往復十日間を以て京都大阪奈良へ出張せられたり。

○職員近況 沼田〔一雅〕教授は今般電話を架設せられたり、その番號は芝五九三七なり。△助手神矢教親氏は今般本郷區駒込動坂町六十六番地へ轉居せられたり。△助手鈴木宮吉氏は、今般瀧野川村田端二八八、澤田方へ轉居せらる。△教授結城貞松氏も電話を架設せられたり。その番號は下谷七二四三なり。△乙竹〔岩造〕囑託は久しく病氣引籠りの處、五月十日より出校授業せらる。△劍道指南木村敷秀氏は、四月廿九日その實弟今村他家二氏を喪はれたり。△千頭〔庸哉〕助教授は此程北豐島郡瀧野川村上中里百六十七番地へ轉居せらる。

○修學旅行者の歸京 奈良京都地方へ旅行したる各科四年生の一行は、豫定の如く、四月十一日出發、各地方實地の研究を遂げ、五月二日無事歸京したり。

○本年の研究生入學者 本年四月新に各研究生として入學せられし諸氏左の如し。

四月八日	日本畫科	得重常太郎
同 同	同	服部 謙一
同 同	西洋畫科	大久保作次郎
同 同	同	及川 康雄
同 同	同	松見 吉彦
同 同	同	宮武 辰夫
同 同	同	古郡 貞一
同 同	同	守田 千穗
同 同	同	金子 保
同 同	同	市川芳太郎
同 同	彫刻科	清水外三郎
同 同	同	勝尾 二郎
同 同	師範科	小坂留太郎
同 同	彫刻科	塚越 東七
同 同	師範科	圓藤 義雄
同 同	同	郷倉 與作
同 同	日本畫科	植松 俊郎
同 同	同	

東京美術學校近事〔一四一三。T・四・六・三〇〕

○教授の新任 川合芳三郎（號玉堂）氏は、去る五月十九日附を以て、本校教授に任ぜられ、高等官五等に敍せられたり。

○教授三氏の陞等 教授岡田三郎助、同和田英作の兩氏は高等官三等に、教授藤島武二氏は高等官五等^に、去る五月二十七日何れも陞等せられたり。

○大村教授の敘勲 教授大村西崖氏は、五月二十九日附を以て勲六等に敘し、瑞寶章を授けられたり。

○職員諸氏の近況 助教授堀井政吉氏は、先般本郷駒込動坂町三二七へ轉居せられたり。△病氣引籠中の教授海野勝珉氏は、五月中旬に至り、病症稍重りし由なりしが、療養の効を奏し、其後漸次快方に向はれつつありと。

東京美術學校近事「一四—四。T・四・九・一〇」

○教授の陞敘 教授鹿島英二氏は、六月十四日、高等官六等に陞敘されたり。

○檢定委員の任命 囑託小島憲之、乙竹岩造、岡田起作の三氏は去る六月十日付を以て、文部省教員檢定委員臨時委員仰付けられたり。

○審査委員の受託 學校長正木直彦、教授黒田清輝、同岡田三郎助、同島田佳矣の諸氏は、去る六月十七日逡信省より、御大禮に關する記念郵便切手類意匠圖案審査委員の囑託を受けられたり。

○日本畫粉本調査の囑託 去る六月十六日付を以て、日本畫科卒業生小島光眞氏に、本校日本畫科粉本調査を囑託せらる。

○教授諸氏の出張 教授鎌田彌壽治氏は、學術研究の爲、二週間を以て京都府大阪府福岡縣へ出張を命ぜられ、七月中旬出發せられた

るが、猶同氏は暑中休暇を利用して、南滿洲朝鮮等に赴きて、化學工業に關する實地研究に従事せらるべしと。又古宇田「実」教授は一週間を以て京都、大阪、奈良へ出張を命ぜられ、七月十七日出發せらる。

○教授諸氏の講師出張 教授島田佳矣氏は七月十一日より二週間沖繩縣へ、八月五日より九月四日迄山形縣へ、各圖案講習會の講師として出張せられ、海野（^美盛）教授は、八月一日より同月三十一日迄、鹿児島市開設の金工製作法及應用圖案講習會講師として出張せられ、白濱「徵」教授は長崎縣南松浦郡教育會主催の圖畫講習會講師として、八月五日より向一週間出張せられたり。

○特待生の選定 本年九月より一學年間特待生に選定せられ、授業料を免除せらるべく決定したるは、左の十四氏なり。

望月 尙（日一）	柳澤 眞一（日一）
岩田 正巳（日二）	大澤 逸次（西一）
名越 豐（西四）	片岡角太郎（彫三）
北原鹿次郎（彫三）	雨田外次郎（彫四）
關 敬信（圖一）	大石 靖（圖二）
野澤 道平（圖三）	林 威三（圖四）
鶴田恒二郎（漆一）	生駒 弘（漆一）

○職員^の近況 囑託小柴英侍氏は、六月八日より同月二十七日迄、支那上海地方へ旅行せらる。△教授黒田清輝氏は、七月七日在鹿児島^の御實父清兼氏の喪に遇はる。△教授結城貞松氏は六月廿四日より二週間日本橋區本町一丁目十二なる耳鼻咽喉科の菊池病院へ入院し、疾病を治療せらる。病氣は右側上顎竇^の膿症なりしと。△囑託

大島勝次郎氏は、先般府下豊多摩郡大久保百人町三十六番地へ轉居せらる。

東京美術學校近事〔一四一五。T・四・一〇・一五〕

○教授諸氏の紋位 教授岡田三郎助、同和田英作の兩氏は各從五位に、教授藤島武二、川合芳三郎の兩氏は各從六位に、孰れも七月二十日付紋位の御沙汰ありたり。

○解囑と受託 囑託村井三吾氏は七月三十日依頼本校囑託を解かれ、又囑託畑正吉氏は、七月二十六日大阪造幣局より彫刻技術顧問を囑託せられたり。

○白井教授の出張 去る七月三十日は 明治天皇三年式年祭御舉行に付、文部省部内奏任官總代として、本校教授白井保次郎氏は桃山へ出張して、同日參列せられたり。

○文部省美術審査委員の任命 本校教授中黒田清輝、高村光雲、岡田三郎助、和田英作、寺崎廣業、白井保次郎、小堀鞆音、川合芳三郎、藤島武二の九氏は、各八月十三日付を以て、第九回文展に於ける美術審査委員仰付られ、高村氏は第三部主任を、寺崎、小堀、川合の三氏は第一部員を、黒田、岡田、和田、藤島の四氏は第二部員を、白井氏は第三部員を命ぜられたり。

○農展審査委員の囑託 學校長正木直彦、教授岡田三郎助、同島田佳矣、同海野美盛の四氏は、何れも八月二十八日第三回圖案及應用作品展覽會審査委員を囑託せらる。

○英語及美術史の囑託 九月十日付を以て文學士矢代幸雄氏へ、各

科の英語及西洋美術史、西洋彫刻史授業を囑託せらる。

○森田氏の擔任増加 森田龜之輔氏は從來各科の英語授業を擔任せられしが、今學年より英語の外、西洋建築史、西洋繪畫史授業を擔任せられたり。

○日本畫授業擔任の變更 從來日本畫科の授業は、第四年級より志望に基づき教室を分ちて三とし、各擔任教官を定めて授業しつつありしが、今學年よりは二年級以上を三教室に分ち、生徒の志望に依りて教室を定めしむることとなり、それ〴〵授業を開始したり。その擔任教官左の如し。

第一教室 川合〔玉堂〕教授 篠田〔柏邦〕助手

第二教室 寺崎〔広業〕教授 小泉〔青堂〕助手

第三教室 小堀〔鞆音〕教授 松岡〔映丘〕助教

第一年級及豫備科は結城〔素明〕教授擔任す。

福井〔江亭〕教授は木彫牙彫及工藝科の繪畫圖案授業並に從來の如く工業圖案科の繪畫授業を擔任す。

岡田〔秋嶺〕教授は從來擔任の遠近法及教員志望者の繪畫の外、更に製版科及寫真科の繪畫授業を擔任す。

○選科生の入學 選科の試験は、九月十三日より同月十七日まで施行せられたるが、その結果合格したるもの、及び特別詮議に依り、同月二十一日入學を許されたる諸氏左の如し。

日本畫選科第二年

高木保之助 東京平

日本畫選科第一年

長谷川秀孝 東京平

足立 良一 東京平

西洋畫科第一年

陳 丘山 支那 黃 源煦 支那

關本 勇吉 神奈川平 李 長元 支那

胡 毓桂 支那

彫刻選科（塑造）第一年

山本金三郎 石川士 森 學 香川平

久保田吉太郎 茨城平

彫刻選科（木彫）第一年

長田 滿也 宮崎士

金工選科第一年

小宮 新吉 東京平

漆工選科第一年

高田 三郎 岡山平

○職員の近況 藤島武二氏は七月廿九日その母堂を喪はる。△白井保次郎氏は八月二日令閨の遠逝に遭はれたり。△赤間運藏氏は七月廿八日嫡長女を喪はれたり。△正木直彦、沼田一雅、津田信夫の三氏は、八月下旬新潟縣佐渡國へ旅行せられ、沼田氏はそれより播州須磨及大阪地方へ赴かれたり△澤村專太郎氏は、美術史研究のため、八月中旬岩手縣中尊寺近傍へ旅行せらる。△寺崎廣業氏は例年の如く、避暑かた／＼七月より信州上林溫泉の別荘へ赴かれ、製作に従事せら／＼ありと。△白山福松氏は七月末より一ヶ月許り、下野國那須溫泉へ入浴せらる。△小堀鞠音氏もまた六月末より三週間許り同溫泉へ赴かれたるが、八月十三日より箱根底倉溫泉へ避暑せらる。△鈴木宮吉氏は暑中休暇中、郷里なる伊豆國西豆村小下田

に歸省せらる。△玉田文作氏は、七月中旬一週間許り、御實父病氣看護のため、郷里宮城縣へ赴かれたり。△關保之助氏は七月二十六日より十日間京都へ旅行せらる。△乙竹岩造氏は七月末より八月末迄横濱市本牧へ滞在せらる。△校友會水泳部事務の爲、増井兼吉、藤岡福三郎、吉本吉右衛門の三氏は、相前後して七月末より同部なる伊豆國土肥へ出張せらる。△岡田秀氏は八月より暑中休暇中、令息を伴ひて奥羽地方の山河を跋涉せらる。△小場恒吉氏は一週間を以て秋田縣へ出張を命ぜられ、八月十六日出發出張せらる。△關保之助氏は其後復た八月二十一日より一週間伊勢國山田市へ旅行せらる。△小柴英侍氏は九月初旬五日間を以て京阪地方へ旅行せらる。△大阪造幣局より彫刻技術顧問の囑託を受けたる畑正吉氏は、八月二十二日より一週間許り同地へ出張せらる。△福井江亭氏は八月末招聘により青森縣地方へ漫遊せらる。△津田信夫氏は去七月より戊辰勤王紀念として建設せらるべき秋田藩主の銅像鑄造中なり。△高村光雲氏は先頃より信州善光寺の山門に安置せらるべき仁王像（丈六）及大黒毘沙門の彫刻に従事せらる。

東京美術學校近事「二四一六。T・四・十一・三〇」

○御眞影の下賜 十月二十一日正木「直彦」學校長は文部省に出頭せられ、御眞影下賜を受けられたり。

○本校職員生徒の奉送迎 今回の御大典のため、十一月六日京都へ御發輦、及び十一月二十八日 還御につき、本校職員生徒は兩度共、外國語學校の運動場を借り入れて集合場とし、夫れより二重橋

外に於て、鳳輦を奉送迎したり。

○賀表の奉呈 今回の御大典に際し、本校よりは本號巻首に挿入せる別圖及別記の賀表を奉呈することとなり、十一月八日全部出来せしにつき、同九日職員控所前の教室に陳列して職員生徒一同の觀覽に供し、同十日午前九時三十分、正木〔直彦〕校長の代理として、高村〔光雲〕教授は宮内省に出頭せられ、謹んで賀表を奉呈せられたり。而してまたその賀表の仕様を録すれば左の如し。

賀表

文章 教授大村西崖氏撰

文字 囑託岡田起作氏書

用紙 鳥の子紙金砂子蒔金泥霞、豎一尺五寸横二尺五寸

花環 賀表を巻きて止むるもの、金銀モールにて作る

宮

製作

木地は檜、下地を白綠色にて塗り、甲板へは鳳凰二羽を上下に舞はし、櫻橋を喰はしめ、櫻橋の散し模様を甲板及四方に繞らし、同臺にも模様を附す、總て天平風の雲綯彩色とし、宮の兩側に菱形鍍金金具を裝ひ、紅白平打紐を付し、宮の上にて結ぶ、臺の上部及宮の内部は辛菱模様の金欄にて貼る。

模様 教授結城素明氏畫

帛紗 白絹三布幅合せ

外宮 桐春慶塗

圖案 教授島田佳矣氏案



賀表宮

○御即位式當日の本校儀式 十一月十日は御即位式當日にして、京都に於かせられては至高至重の儀式を行はせらるることとなりしかば、本校職員生徒は同日午後二時半講堂に參集し、高村〔光雲〕教授は正木〔直彦〕校長の代理となられ、謹みて、御眞影を奉拜し、勅語を奉讀し、次で訓話あり。三時三十分に至り、高村代理の發聲にて、萬歳を三唱して式を終り退散せり。

○正木學校長の御大典參列 學校長正木直彦氏は今回の御大典のため、十一月八日出發せられ、各儀に參列せられ、十一月二十日歸京せらる。

○黒田教授の昇等と敍勲 教授黒田清輝氏は去る九月二十七日高等官二等に陞敘せられたりしが、十一月二十九日に至りて、勲四等に

紋し、瑞寶章を授けられたり。

○囑託と解囑 去る九月十五日附を以て、工學士瀧川鼎氏へ圖案科に課する建築構造及建築材料授業を囑託せられ、囑託乙竹岩造氏は病氣のため、依願解囑せられたり。

○雇員の拜命 野口六三氏は去る九月十八日本校雇（金工科助手）を命ぜられ、臨時雇板橋進氏も亦十一月二十日附にて、本校雇（文庫掛）を命ぜられたり。

○小泉氏の解雇 文庫掛雇小泉榮治氏は、數月來肺患療養中なりしが、十一月十二日願に依りて雇を解かれたり。猶聞く所に依れば、同氏は其後病勢革り、遂に同月二十二日死去せられたりといふ。洵に痛惜の至りなり。

○教員諸氏の出張 助教授津田信夫氏は秋田藩主銅像据附のため、九月三十日より十月二十日迄秋田市へ出張せられ、教授白濱徹氏は十月七日より十日間學術實地指導のため、京都府大阪府奈良縣等へ出張せられ、教授鹿島英二氏は十月二日より五日迄、大垣市店頭裝飾陳列品評會の審査のため、同市へ出張せられたり。

○和田藤島兩教授の敘勲 教授和田英作、同藤島武二の兩氏は、九月二十九日勲六等に敘し、瑞寶章を授けられたり。

○其後の選科入學者 前號掲載以後本校選科へ入學を許されたるは左の如し。

九月廿二日 漆工 幸王好太郎 奈良市
同 三十日 木彫 黃 土水 臺灣人
○十月の研究生入學者 左の諸氏は十月二日各彫刻研究生として入學を許さる。

松村秀太郎 谷本清太郎 岡崎 朋邦

藤谷 嘉一

○特別進級 西洋畫選科四年の高間惣七氏は卒業期に、金工選科二年の小林親光、關省三郎兩氏は同科三年に、各特別詮議にて九月二十九日進級せらる。

○本年の本校設置紀念日 毎年十月四日は本校設置紀念日として、其式を舉行さるゝことなるを以て、本年も亦同日午前十時よりその式を舉げられたり。今其次第を記せば、當日職員生徒一同著席するや、正木校長は演壇に立たれ、此日に方りては毎に本校設立當時の社會の情勢、學校の狀態等を顧みて各種の感想を起す旨を述べられ、尋で此機を利用して、本年を以て、本校勤續滿二十五年となられたる、海野（勝珉）教授及屋代書記の功勞を表彰するの辭を陳べて目錄を授與せられ、屋代書記は起ちて簡單なる謝辭を述べ、それより、河口慧海師の「西藏の美術に就て」の講話ありて後一同に茶菓の饗應あり、正午頃より思ひ／＼に退散したり。

○本年各科の修學旅行 例により各科（委託生共）にては、去十月廿四五日より各三日間を以て左の各所へ修學旅行を爲せり。

日本畫科は江の浦より修善寺へ△西洋畫科は福島縣飯坂温泉へ△彫刻科は伊香保へ△圖案科及金工科は鹽原へ△鑄造科は赤城山より伊香保へ△漆工科は筑波山より大洗へ△寫眞科及製版科は鹽原へ△師範科は熱海より伊東へ△工業圖案科は鹽原へ

○科外講演 本校校友會文學部の主催として、十一月二十日（土曜日）科外講演は開かれたり、意外の盛況にして、聽衆の諸氏は大講堂に溢るゝ許りなり。午後一時より開演し、先づ小林萬吾氏の「ス

ペインの話し」を了り、坂井犀水氏は「何を求むるや」といふ題にて、今の美術家の求むる所を論じ、次に中川忠順氏は「ポストン美術館蒐集の『日本畫の價值』」に就いて講話せられ、尋で三宅雪嶺博士は「繪畫に關する偶感」を語られて、聴衆の感動を惹かれたり。而して講演を終りたるは、鴉は塙に歸りて暮色靜かに窓を壓する頃なりき。

○職員諸氏の近況 雇助手鈴木宮吉氏は先頃本郷區駒込動坂町二四四、戸田方へ轉居せらる。△雇助手篠田十一郎氏は先般來府下瀧野川町田端四九八番地へ畫室新築中なりしが、此程竣成移轉せらる△雇助手八巻於菟三氏は今回小石川區宮下町三十五番地へ轉ぜらる△雇助手神矢教親氏も、本郷區駒込林町二百二十七番地へ轉居せらる△教授古宇田實氏は十一月三日御實父を喪はれたり△囑託大島勝次郎氏は、病氣療養のため相州茅ヶ崎に轉地し居らる△囑託矢代幸雄氏は下谷區上野櫻木町十九番地へ轉居せらる。

東京美術學校近事〔一四一七。T・五・一・十二〕

○昇叙と解囑 教授安田錄造氏は十二月九日高等官六等に、囑託矢野道也氏はその本官たる印刷局技師に於て、十二月十三日高等官三等に陞叙せられ、又本校修身及教育學の囑託たりし乙竹岩造氏は、病氣のため十一月三十日願に依り囑託を解かれたり。

○主任の任命 十二月六日海野〔美盛〕教授は、金工科主任を命ぜらる。

○助教授の出張 助教授松岡輝夫氏は、京都へ出張を命ぜられ、一

週間の見込を以て十二月十一日出發せられたり。

関連事項

① 臨時写真科設置

大正四年二月二十日、臨時写真科が設置された（641、642、648頁記事参照）。同科の学科課程と授業要旨は『東京美術學校一覽（從大正四年至大正五年）』に次のように記されている。

〔学科課程表〕

課目	毎週教授時數		
	第一學年	第二學年	第三學年
修身學	一	一	一
數學	二		
物理學	一	二	
化學學	二		二
化學實驗	三		
色彩學	一		
光化學		一	
寫真術	二	二	二
製版術大意		二	一
材料及藥品		二	
圖案法	二	二	
繪畫及圖案	四	四	
美學		二	